

NHK「かぶん」ブログ

Science & Culture

NHK科学文化部(かぶん)のブログです。

科学と文化の専門記者が取材した最新的话题をお伝えします。

■2012年11月17日

◇未公表データが存在 放射線量が急上昇

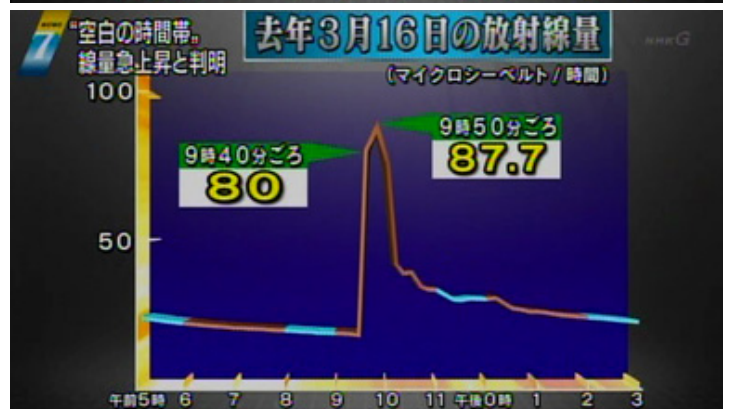
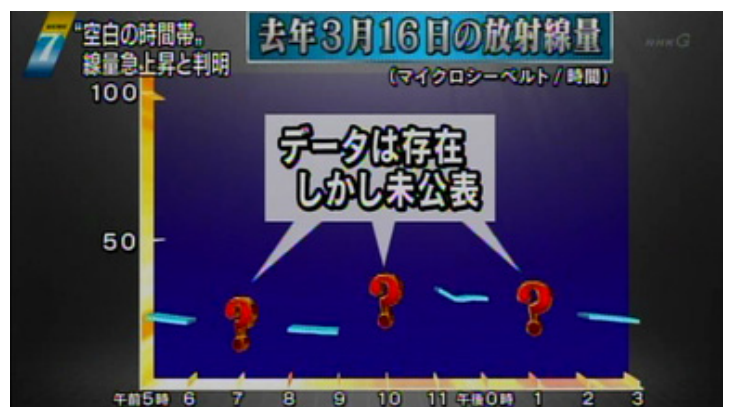
去年3月の原発事故で放射性物質がどのように放出したかを調べるのに重要な原発周辺の放射線量について、公表されていないデータが存在することが分かりました。東京電力は未公表の理由について「調査中」としていますが、この中には、事故から5日後の去年3月16日午前に一時的に急上昇しているデータもあり、専門家は「原発で何か起きた可能性を示しており、詳しく調べる必要がある」と指摘しています。

福島第1原発の事故で放出された放射性物質については、東京電力がことし5月に最新の解析結果を公表し、去年3月15日に2号機から翌16日には3号機から、大量に放出されたとしています。具体的な放出経路などは明らかになっていません。

この未解明の謎に迫ろうと、NHKが原発周辺で観測された放射線量について改めて調べたところ、第1原発から南に12キロにある第2原発の値に不自然な点があり、問い合わせた結果、未公表のデータの存在が分かりました。

東京電力によりますと、未公表は去年3月15日午前から4月3日にかけてのデータで、このうち確認できたとして東京電力が明らかにした3月16日のデータを見ると、午前9時40分ごろ、それまで1時間当たり20マイクロシーベルト前後で推移していた放射線量が突然80マイクロシーベルトに跳ね上がり、10分後には87.7マイクロシーベルトまで上昇していました。

線量が上昇する1時間余り前の午前8時半頃に、3号機の建屋から白煙が大量に噴き出ているのが確認されていて、放射性物質の放出との関連が疑われていますが、何が起きたのか詳しいことは分かっていません。



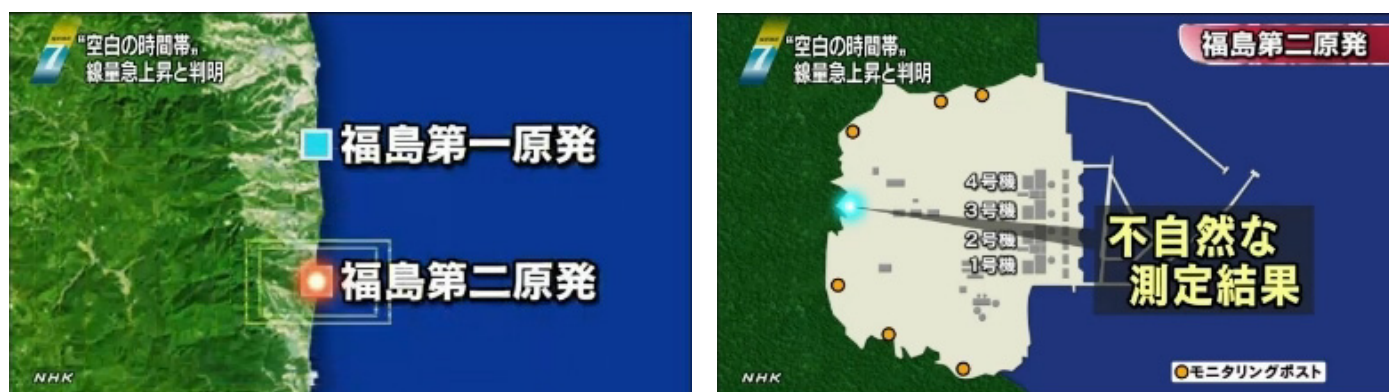
これについて、事故のあと、原発周辺の放射線量などを調べている東京大学の門信一郎准教授は「事故から1年8か月がたつのに、いまだに未公表があるのは分析を行ってきた立場として大変残念だ。今回のように大きく値が変化するデータは、福島第1原発で何か起きた可能性を示しており、3号機の白煙との関連を含め、詳しく調べる必要がある」と指摘しています。

◇未公表データが存在 放射線量が急上昇

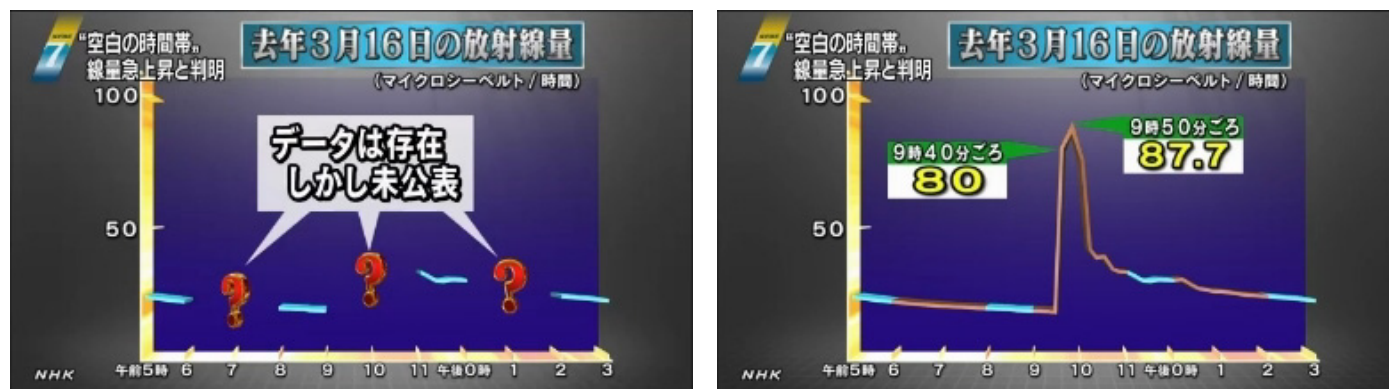
東京電力福島第1原発の事故で、未だに公表されていない重要なデータが存在していました。原発周辺の放射線量のデータで、NHKはその一部を入手しました。事故から5日後のある時刻に放射線量が一時的に急上昇していて、専門家は「大量の放射性物質がどのように放出されたかの解明につながる可能性がある」としています。

去年3月の原発事故で、東京電力は、15日に2号機から翌16日には3号機から、大量の放射性物質が放出されたとしています。しかし、何が起きたのか？ どこから漏れたのか？ などは充分に分かっていません。この謎を解く手がかりの一つが、原発周辺の放射線量のデータです。ただ、福島第1原発の8つのモニタリングポストは、地震の直後、停電でデータが途絶えました。そこでNHKは、別の方法で当時の放射線量のデータを改めて探りました。そして分かったのが、これまで公表されていない重要なデータの存在でした。

NHKが注目したのは、福島第1原発から12km南にある福島第2原発のデータです。この位置のモニタリングポストは地震の直後に設置されました。この測定結果に不自然な点があったのです。

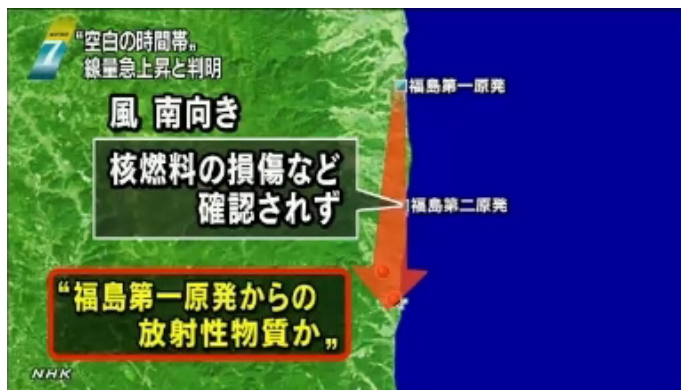


去年3月16日の放射線量のグラフです。ところどころに線で結べない空白の時間帯がありました。NHKが東京電力に確認したところ、実はこの部分にもデータが存在するのに、公表されていなかったことが分かったのです。データを手入して調べると意外な事実が分かりました。空白の時間帯で突然放射線量が跳ね上がったのです。去年3月16日の午前9時40分から50分にかけて、最大で1時間当たり87.7マイクロシーベルトまで上昇していました。



NHKでは、計器の故障で無いか確認するため、福島県が独自に設定している2F周辺のモニタリングポストのデータも調べました。すると、楢葉町や広野町でも午前10時ごろ放射線量が一時的に上昇していました。

当時風は南向きで、2F は核燃料の損傷などが確認されていません。
このため 1F から放出された放射性物質が観測された可能性があるのです。



東京電力によりますと、この1時間あまり前の午前8時半ごろには、3号機から白煙が大量に吹き出ているのが確認されています。放射性物質の放出との関連が疑われていますが、具体的に何が起きたのかはまだ分かっていません。



未公表のデータは他にも去年3月15日から4月3日にかけて存在するとみられています。



東京大学 門信一郎准教授（原発事故後の放射線量などを調査）：
こうしたデータについて専門家は、空間線量が変わった時というのは必ず何か理由があるので、炉の中で起こっていることを空間線量の時間変化から推測するっていうのは非常に重要な方法ですので、そういったデータをなるべく密に公表していただくという事が大事なことだというふうに思います。

東京電力は、なぜ公表されていないのかは調査中だ。確認が出来次第公表を検討したいとしています。

■2012年11月19日 時事通信

◇福島第2の線量、一部未掲載 = 昨春事故後、東電HPに

東京電力は19日、1F事故の発生から間もない昨年3月15日から4月3日にかけて、2Fのモニタリングポストで測定された放射線量の一部が同社ホームページ（HP）に掲載されていなかったと発表した。

東電は「対応が十分ではなかった」として改めて掲載した。

東電によると、当時は1Fで冷却水喪失から炉心溶融に至る原子炉が相次ぎ、対応に追われていた。

このため、2Fの放射線量については本社で3時間おきに、最新の1時間分を手作業でHPに掲載しただけだった。未掲載のデータも別のルートで経済産業省原子力安全・保安院に伝えられ、公表されていた。

■2012年11月20日 NHK 続報

◇東電 未公表データをHPで公表

去年3月の原発事故のあと2Fで計測された放射線量について、東京電力が公表していないデータがあることが明らかになった問題で、東京電力は「当時、事故対応の混乱などで3時間おきにしか出していなかった。国には報告し発表されていたが対応は十分でなかった」としたうえで、このデータについては19日ホームページで公表しました。

(略)

2F モニタリングポスト計測値の当社ホームページ掲載状態について

平成24年11月19日
東京電力株式会社

□東北地方太平洋沖地震後、当社2Fモニタリングポストの計測値を当社ホームページに掲載しているが、一部の時間帯で計測値が掲載されていないことを確認。

□現状、確認できている当社ホームページの掲載状態は、以下の通り。

- ・モニタリングポストの計測値は「リアルタイムデータ」としてグラフで表示していたが、電源の点検のため、平成23年3月13日午前7時40分から10分毎の計測値を掲載。
- ・平成23年3月15日午前9時00分までは10分毎の計測値を掲載していたが、同時刻以降、定期的に2時間分の10分毎の計測値が未掲載となっている。
- ・平成23年4月3日午後11時00分まで、定期的に2時間分の10分毎計測値が未掲載である状態が継続。その後、同日午後11時10分より10分毎の計測値が掲載。
- ・また、そのようなサイクル以外にも未掲載のデータを一部確認。

例：3月16日午後3時10分～3月17日午前2時00分

□当社ホームページに掲載されていない時間帯も、モニタリングポストによる計測行われている。

文中以下書換え

福島第1原子力発電所、第1原発 → 1F

福島第2原子力発電所、第2原発 → 2F